

序

所報の第17号をお届けします。

建設業のかかわりをもつ技術というものは非常に広範囲にわたります。大きく見れば、建設物というものは、自然界の中に人類が造り、その中で、あるいはそれによって人類が生活の営みをするものです。ですから大きく分ければ、建設物は大自然に対するかかわりと、人間の生活に対するかかわりと、二つの面をもっております。

したがって私達は、自然を研究し、自然と建設物の対応を糾明し、一方、人間の営みを知りそれとの対応を考えねばなりません。そして建設生産という行為自体が、自然と人とのかかわりの中で行なわれます。私達がしなければならない仕事の広さ多様さは、まことに気の遠くなるほどのものです。しかし私達はあせらず、そのひとつひとつを突き崩して行かなければなりませんまい。

この号に集録されている報告も、自然界が、その中に置かれた建設物にどのように影響を与えているか、また使いなれた工法や材料も、どんなにいろんな問題を持っているかを示しているようです。

得られた成果は、たとえ今日の利益にならないものでも、明日の技術を支える力の一部になるものと思われます。

ご高覧を得られれば、まことに幸いです。

1971年4月

清水建設研究所 所長

烏 田 専 右